

日本気象学会 1992年度秋季大会

会期：1992年10月7日（水），8日（木），9日（金）

会場：札幌市教育文化会館（一般発表会場＝7日午後以外）

〒060 札幌市中央区北1条西13丁目（電話 011-271-5821）

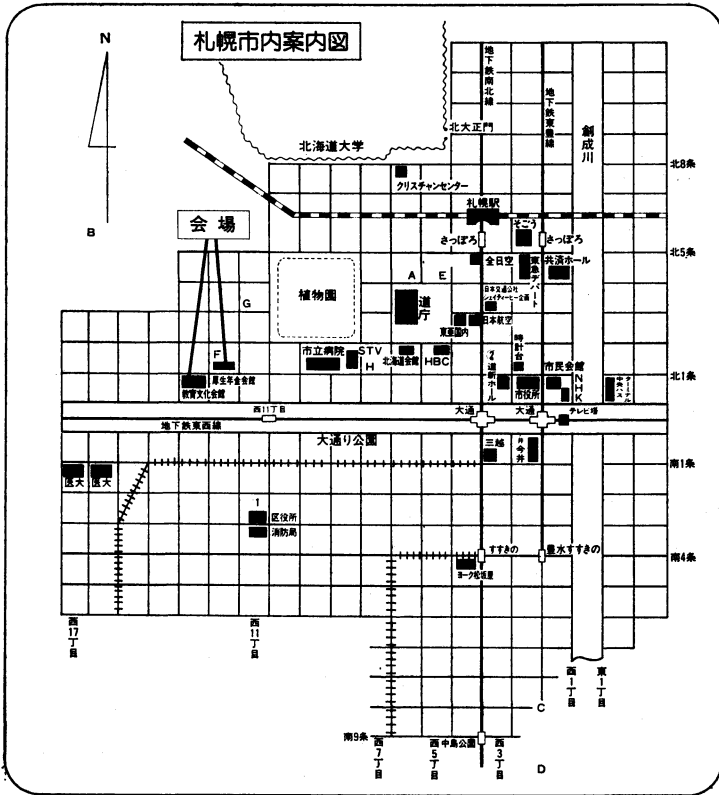
北海道厚生年金会館（式典・シンポジウム・懇親会場＝7日午後）

〒060 札幌市中央区北1条西12丁目（電話 011-231-9551）

目次

会場案内	525
大会行事予定表	526
研究発表内容一覧表	526
シンポジウム内容	527
研究発表題目	528～537

会場案内図



秋季大会行事予定

1. 会場：札幌市教育文化会館（電話 011-271-5821）、北海道厚生年金会館（電話 011-231-9551）

A会場：教育文化会館4階 講堂
 B会場：教育文化会館3階 大研修室
 C会場：教育文化会館3階 中研修室
 D会場：教育文化会館3階 特別会議室

ポスター会場：教育文化会館1階 ロビー
 授賞・贈呈式：厚生年金会館3階
 シンポジウム：厚生年金会館3階
 懇親会：厚生年金会館3階

2. 大会参加費 一般会員・非会員 2,500円、学生会員 1,500円

3. 会期：10月7日（水）、8日（木）、9日（金）

() は講演数（第1種～第2種と講演番号）、- - は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場	
10月7日 (水)	09:30～ 12:00	メソ現象Ⅰ (8-5, A101～A113) -小西啓之-	熱帯大気 (8-4, B101～B112) -高橋清利- -岩崎一孝-	放射 (7-0, C101～C107) -古川義純- 測器・観測手法 (7-1, C108～C115) -鈴木 修-	環境気象・気象教育 (14-1, D101～D115) -太田幸雄-	
	13:00～ 14:50	山本正野論文賞・堀内基金奨励賞授与・奨励金贈呈 学会賞・山本正野論文賞・堀内基金奨励賞記念講演				この時間帯 の行事は厚 生年金会館 で行う
	15:00～ 17:30	シンポジウム “都市の豪雪” — ここまできた降雪の観測と予測 — 座長：播磨屋敏生 話題提供者：村松照男・上田 博・藤吉康志・浅井富雄・二宮洗三				
	18:00～ 20:00	懇親会				
10月8日 (木)	09:00～ 12:30	雪Ⅰ (10-6, A201～A216) -永田 雅- -藤吉康志-	大気化学 (8-3, B201～B211) -若松伸司- エアロゾルⅠ (4-3, B212～B218) -土器屋由紀子-	大気力学 (12-5, C201～C217) -木村竜治- -林 祥介-	台風 (5-2, D201～D207) -大西晴夫- メソ現象Ⅱ (7-1, D208～D215) -青梨和正-	
13:30～ 16:00	雪Ⅱ (7-3, A251～A260) -松尾敬世- -播磨屋敏生-	エアロゾルⅡ・オゾン (12-0, B251～B262) -牧野行雄-	海洋・雪氷・大気相互作用 (5-5, C251～C260) -榎本浩之-	メソ現象Ⅲ (7-0, D251～D257) -小野寺三朗- 予報モデル・データ同化 (9-0, D258～D266) -里村雄彦-		
	16:10～ 17:30	ポスター・セッション（A会場で概要紹介後、1階ロビーで講演） (P201～P211)				
10月9日 (金)	09:00～ 12:30	航空機による大気水圏観測 (17-3, A301～A320) -大和政彦- -石坂 隆-	気候Ⅰ (6-3, B301～B309) -松本 淳- 気候Ⅱ (4-1, B310～B314) -高野清治-	陸面・大気相互作用 (8-2, C301～C310) -桑形恒男- 大気境界層Ⅰ (7-1, C311～C318) -鈴木力英-	中層大気 (4-8, D301～D312) -宮原三郎-	
	13:30～ 16:00	メソ現象Ⅳ (6-5, A351～A361) -中井専人-	気候Ⅲ (2-3, B351～B355) -山中康裕- 大気大循環 (6-2, B356～B363) -田口彰一-	大気境界層Ⅱ (15-1, C351～C366) -鶴野伊津志-		

発表件数 284件（第1種講演205、第2種講演68、ポスター11）

講演・質疑時間は、第1種講演は5分と2分、第2種講演は10分と5分、ポスター概要紹介は1人1.5分以内。

講演者へのお願い

・スライドを使う場合は、マウントに番号をつけ、上下をそろえて各会場の係員に提出して下さい。

・ポスター・セッションの方法については「天気」4月号230ページ参照。ポスターには表題と発表者名を明記して下さい。

シンポジウム

“都市の豪雪” — ここまで来た降雪の観測と予測 —

1. 日時 大会第1日(10月7日) 15:00~17:30
2. 会場 北海道厚生年金会館3階
3. 座長 播磨屋敏生(北大・理)
4. 講演
 - 村松照男(札幌管区): 豪雪の実態と予報の現状
 - 上田 博(北大・理): 石狩湾周辺の渦状擾乱の内部構造
 - 藤吉康志(名大・水圏研): 下層風からみた石狩湾上の降雪雲の形成過程
 - 浅井富雄(東大・海洋研): 冬季日本海上に発生する帯状雲と小低気圧の数値実験
 - 二宮洸三(気象庁・予報部): 降雪をもたらすmeso- α -scale lowを含む多scale process
5. 総合討論

研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます(7月29日受付分)。興味のある方はご自由にご参加下さい。プログラムの詳細については「天気」8月号をごらん下さい。

1. 第4回メソ気象研究会

日時: 10月6日(火) 13:30~17:00

会場: 札幌市教育文化会館(大会会場)3階・中研修室

テーマ: 「メソ現象と雲物理のはざまにて」

コンビーナー: 上田 博(北大・理)

2. 第4回大気-海洋相互作用研究会

日時: 10月6日(火) 13:30~17:15

会場: 北海道大学低温研究所 講義室

テーマ: 「高緯度域での空と海と氷の相互作用」

コンビーナー: 竹内謙介(北大・低温研)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。



気候コロキウムのご紹介

気候コロキウムは気候に関心のある人の自主的な研究会で、関東地方を中心に、毎月、例会を開いています。もともとは地理学の1分科として気候学専攻の若手研究者の集まりでしたが、現在は地球物理系、工学系、農学系からも多くの参加があります。

10月例会は、10月10日(土)9:30から、北海道大学低温研究所 212号室で行われます。演題は次の通りです。

仲山智子(北大・低温研): 地球温暖化にともなう活動層の厚さの変化とそのフィードバック効果について

(注: 活動層とは、永久凍土の上にある季節的に水分が凍ったりとけたりする層をさす)

岩崎一孝(北大・文・地理): アフリカ南部の気候 — 1987~1990の科研費調査の報告をかねて —

連絡先 松山 洋(東大・理・地理) 電話 03-3812-2111 内線4580, Fax 03-5684-0518 (事務室)
e-mail matuyama@geogr00.geogr.s.u-tokyo.ac.jp

大会第1日〔10月7日〕 9:30~12:00

(講演番号の下線は第2種講演を、著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定、[V]=VTR使用予定)

A会場

メソ現象I

座長:小西啓之(大阪教育大)

- A101 小西啓之(大阪教育大), 和田 誠(極地研), 遠藤辰雄(北大・低温研):南極昭和基地付近の水雲, 水雲の季節変動
- A102 水野 量・松尾敬世・村上正隆・山田芳則(気研・物理):巻雲のHYVIS観測—凍結水滴が存在した事例—
- A103 佐藤 昇(大阪府科学教育センター), 石坂 隆・B. Irawati・皆巳幸也(名大・水圏研):日本海降雪雲における氷晶発生過程の観測—氷晶核と雲粒核スペクトルの測定— [S]
- A104 Y. Ishizaka・B. Irawati・Y. Minami(名大・水圏研), N. Satoh(大阪府科学教育センター), K. Ishikawa(東大・海洋研):OBSERVATION ON FORMATION PROCESS OF ICE CRYSTALS IN PRECIPITATION SNOW CLOUDS NEAR JAPAN SEA—Ice multiplication as a case study—
- A105 山田芳則・村上正隆・松尾敬世・水野 量(気研物理):温暖前線に伴う降雪雲の内部構造の観測
- A106 村上正隆・山田芳則・松尾敬世・水野 量(気研・物理):強い上昇流をもつ降雪雲の内部構造
- A107 高橋暢宏・上田 博・遊馬芳雄・清水収司・上野圭介・菊地勝弘・播磨屋敏生・石田晴彦(北大・理):降雨の偏波ドップラーレーダーによる観測と雨粒径分布の比較
- A108 高橋 勁(九大・理):Deep Cloudからの降水—数値実験
- A109 斉藤和雄・松尾敬世・村上正隆・水野 量・山田芳則(気研), 猪川元興(故人):対流性降雪雲の地形による変質について—(1)2次元数値実験—
- A110 村上正隆(気研・物理), R. Rasmussen(NCAR/RAP):斜面滑昇によって形成された層状性降雪雲の数値シミュレーション
- A111 道本光一郎・深渡瀬角太郎・遠峰菊郎・小林文明(防大・地球科学), 長田正嗣(日本無線㈱):小松飛行場周辺の冬季航空機被雷時のレーダエコーと地上電界変化(第2報)
- A112 遠峰菊郎・内藤玄一・小林文明・道本光一郎・深渡瀬角太郎・原岡秀樹・吉田文二(防大・地球科学), 郷津寿夫・酒井 勉(北陸電力・技術研):北陸の中, 小規模擾乱と雷
- A113 滝谷克幸(気象協会・北海道):LLSを用いた北海道の雷特性

B会場

熱帯大気

座長:高橋清利(気研・台風)

- B101 丸山健人(気研・予報):赤道対流圏界面高度の変動:シンガポール1983-1992
- B102 中澤哲夫(気研・台風), 住 明正(東大・気候システム), 内田裕之(気象衛星センター):「ひまわり」赤外面像を用いた熱帯域での風算出
- B103 小林ちあき・岩崎俊樹(気象庁・数値予報):客観解析に表現された熱帯低気圧分布の気候学的特性について
- B104 山崎信雄・村上勝人(気研・台風):スーパークラスタースケールでのエネルギーの非線形相互作用(第2報)
- B105 高藪 縁(国立環境研), 新田 勲(東大・気候システム):熱帯域積雲対流活動の組織化の時間スケールについて
- B106 J. Yano・J. McWilliams(NCAR), K. Emanuel(CMPO, MIT), M. Moncrieff(NCAR):A Toy Model of Tropical Cloud Systems
- 座長:岩崎一孝(北大・文・地理)
- B107 見延庄士郎(北大・理):熱帯太平洋における海上風速の年周期西方伝播
- B108 宋 家喜(中国国家海洋環境予報センター), 竹内謙介・立花義裕(北大・低温研):熱帯西部大西洋東西風異常とENSOの発生
- B109 高橋清利・村上勝人(気研・台風):INSAT-GMS赤外データを用いた夏季アジアモンスーンに伴う雲域変動の解析—季節内変動
- B110 平沢尚彦(名大・水圏研):5月半ばに起こる中国から日本付近に維持される平均雲量極大ゾーンの急変とそれに関連する東アジア大気循環場の変化
- B111 児玉安正(弘前大・理):亜熱帯域の顕著な降水帯の周囲の循環場の特徴について
- B112 鬼頭昭雄(気研・気候):サヘルとノルデステの雨—数値実験から

大会第1日〔10月7日〕 9:30~12:00

(講演番号の下線は第2種講演を, 著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

放射

座長 古川義純(北大・低温研)

- C101 深堀正志・青木忠生・青木輝夫(気研・物理), 鈴木 睦(国立環境研), 森山 隆(宇宙開発事業団), 石田英之・渡辺 猛(東レリサーチ): メタンの2_ν3吸収帯manifold強度の測定
- C102 柴田清孝・内山明博(気研・気候): フロンの吸収断面積の変動が放射強制力に与える影響について
- C103 荒生公雄・秦 久里子(長崎大・教育), 島浦恵一(長崎県香焼中): 3色測光システムによる夜間の混濁度の評価
- C104 荒生公雄(長崎大・教育): 潮岬と土佐清水における山本の混濁係数: 1990-91
- C105 佐々木佳明・古川義純(北大・低温研): 人工氷晶雲の光散乱特性の測定
- C106 真野裕三・塩原匡貴・浅野正二・内山明博(気研・気候): 航空機観測による積雲群の短波放射特性の解析(2)
- C107 井上豊志郎(気研・台風), S.Ackerman(ウイスコンシン大): Split Windowによる雲型とERBE

測器・観測手法

座長 鈴木 修(気研・衛星)

- C108 高島 勉(気研・衛星), 増田一彦(McGill大): 衛星による不均質地表面計測のための可視域大気補正アルゴリズム
- C109 増田一彦(McGill大), 高島 勉(気研・衛星): 航空機高度の上向き放射の偏光度に対する海面風向と白波の影響
- C110 丹治辰男・沖野典夫・望月 定(室蘭工大・工): 新しい雨量計の開発II
- C111 岩坂泰信・林 政彦(名大・STE研), 沼田典之(エアロゾル研), 土屋政義・菅野 茂(シグマテック㈱), 松永捷司・村井康浩(名大・STE研): 新しい露点ゾンデの開発—ノンフロンタイプ—
- C112 鈴木 修・大野久雄・楠 研一(気研・衛星): 2つのパルス繰返し周波数を使ったドップラー速度の自動折返し補正機能の実用化
- C113 竹内延夫・奥村 浩・松本洋典・杉田 匡(千葉大), 山口 哲(新日鐵㈱エレクトロニクス研): フィールド観測用LD励起YAG可搬型ライダーの試作
- C114 奥村 浩・杉田 匡・松本洋典・竹内延夫(千葉大): LD励起YAG可搬型ライダーによる“やませ霧”の観測[V]
- C115 岩坂泰信・柴田 隆・林 政彦・長谷正博・中田 滉・小塩哲朗(名大・STE研): ラマン散乱ライダーによる大気観測(1)建設と試験観測

D会場

環境気象・気象教育

座長: 太田幸雄(北大・工)

- D101 山下邦博(消防研): 林野火災の地域特性に関する研究(その1)月別降水量と月別林野火災件数の相関[S]
- D102 高橋俊二・岡田菊夫(気研・応用): 東京で採取されたスギ花粉のX線分析
- D103 一ノ瀬俊明・花木啓祐・松尾友矩(東大・工): 気温とエネルギー消費構造の関係から見た地球温暖化の都市生活への影響
- D104 北田敏廣(豊橋技術科学大), 田中一浩(広島県): 東アジアにおける人為起源硫酸塩の乾性沈着と湿性沈着
- D105 村尾直人(北大・工), 片谷孝孝(山梨大・工), 佐々木啓聡(富士通エフアイビー㈱), 太田幸雄・山形 定(北大・工), 岡本眞一(東京情報大), 小林恵三(産業公害防止協会): 東アジア地域の酸性降下物のモデル計算—硫酸化物の収支と火山の影響—
- D106 前田高尚・田口彰一・林 正康(資源環境研): 東アジア地域における仮想気塊の移流[V]
- D107 江口 卓・鶴田治雄・袴田共之(農環技研): 硫酸イオン降水量と降水量の関係の季節変化
- D108 箕浦宏明・小木曾 毅(豊田中央研): 酸性雨の観測とイオン洗浄過程の考察
- D109 瀬戸信也・大原真由美(広島県環境センター), 池田有光(大阪府大・工): 中国山地における降水のイオン成分濃度と流跡線との関係
- D110 泉 裕明(北大・環境), 菊地勝弘・上田 博・遊馬芳雄・加藤慎博(北大・理): 降雪粒子の化学成分からみた特徴[S]
- D111 土器屋由紀子・廣岡俊彦(気大), 石川澄雄・大矢正克(八丈島測), 山下順也(名瀬測): 硫酸化物の洋上輸送—観測船と島嶼で採取した試料の比較—
- D112 藤田慎一・高橋 章・西宮 昌(電力中研): 九州北西海域における二酸化硫黄と硫酸塩の鉛直濃度分布[S]
- D113 吉川友章・佐藤純次・栗田 進(気研・応用): 粒子状物質の降雨中拡散実験と数値計算
- D114 上田和雄・小林寿宣・渡辺 明(福島大・教育): GMS画像による大気擾乱の移動認識について[S]
- D115 山下 晃・小西啓之・合馬義人(大阪教育大): 大雪山麓における雪結晶の観測[S]

大会第2日〔10月8日〕 9:00~12:30

(講演番号の下線は第2種講演を, 著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A 会場

雪 I

- 座長: 永田 雅 (気研・予報)**
- A201 仁科淳司 (東大・地理): 冬季日本海側における気温-降水量-降雪量の関係
- A202 力石國男・石部智大 (弘前大・理): アメダスデータ解析による北陸地方の降雪特性の研究
- A203 力石國男・永沢 幸 (弘前大・理): アメダスデータ解析による石狩地方の降雪特性の研究
- A204 二宮洗三 (気象庁・予報部): 北海道西岸の meso- α -scale cyclogenesis と降雪
- A205 永田 雅 (気研・予報): 北海道西岸沖の帯状雲のメソスケールモデルによる予報実験: 1992年1月23~24日の事例
- A206 牛山朋来・佐藤晋介・遠藤辰雄 (北大・低温研), 藤吉康志・武田喬男 (名大・水圏研); 「都市豪雪」観測グループ (代表者: 菊地勝弘): 石狩湾上における帯状雲の三次元風速分布と発達過程 (1992年1月31日の事例解析)
- A207 加藤植博・上田 博 (北大・理), 吉崎正憲 (気研・台風): 礼文島において観測された帯状雲の2次元数値実験
- 座長: 藤吉康志 (名大・水圏研)**
- A208 金村直俊・藤井雅晴・今野真悦 (札幌総合情報センター), 菊地勝弘・上田 博 (北大・理): 石狩平野に進入した渦状擾乱の解析 — 1992年2月11日のケースについて —
- A209 上田 博・上野圭介・高橋暢宏・遊馬芳雄・菊地勝弘 (北大・理); 「都市豪雪」観測グループ (代表者: 菊地勝弘): 石狩湾周辺における降雪雲の発生・発達過程の観測 — その4: 小規模渦状擾乱の特徴について —
- A210 上野圭介・上田 博・遊馬芳雄・菊地勝弘 (北大・理), 佐藤晋介・遠藤辰雄・竹内謙介 (北大・低温研), 藤吉康志・武田喬男 (名大・水圏研): 石狩湾周辺における降雪雲の発生・発達過程の観測 — その5: 1992年1月23日の小規模渦状擾乱の構造 — [S]
- A211 三浦勇一 (東京理大・理工): 寒気の吹き出しに伴って発生する中規模渦状擾乱のスパイラル降水バンドの形成と低気圧性曲率の増大について
- A212 小林文明・内藤玄一 (防大・地球科学): 冬季日本海上の降雪雲に伴って発生した竜巻 (その2) — 地上の竜巻とその親擾乱について —
- A213 菊地勝弘・菊地 理 (北大・理), 金村直俊・藤井雅晴 (札幌総合情報センター): 1992年3月17日道央自動車道衝突事故 [S]
- A214 真木雅之・中井専人・八木鶴平・中村秀臣 (防災科研・つくば), 宮地英生 (関クボタコンピュータ): 寒気吹き出し時に観測された降雪雲の組織化と大気境界層パラメータとの関係 [V]
- A215 藤吉康志・吉本直弘・岩崎博之・三隅良平・越田智喜・武田喬男 (名大・水圏研); 「都市豪雪」観測グループ (代表者: 菊地勝弘): 主風向に対してほぼ平行な走向を持つ筋状雲の成因と構造
- A216 佐藤晋介 (北大・低温研), 藤吉康志 (名大・水圏研), 遠藤辰雄 (北大・低温研), 武田喬男 (名大・水圏研); 「都市豪雪」研究グループ (代表者: 菊地勝弘): 複数台のドップラーレーダーによるTモード筋状雲の運動学的構造の研究

B 会場

大気化学

- 座長: 若松伸司 (国立環境研)**
- B201 中澤高清・町田敏暢・田中正之 (東北大・理), 藤井理行・青木周司・渡辺興亜 (極地研): 南極みずほコアより推定された過去3000年にわたる大気中のCO₂, CH₄およびN₂O濃度の変動
- B202 清水 明・秋元 肇 (国立環境研): 昭和基地における一酸化炭素濃度の季節変動 [S]
- B203 青木周司 (極地研), 村山昌平 (東北大・理), 清水 明 (国立環境研), 林 政彦 (名大・STE研): 昭和基地における地上オゾン濃度変動
- B204 中澤高清・菅原 敏・田中正之 (東北大・理): 太平洋上における大気中の一酸化炭素濃度の変動
- B205 山本 晋・村山昌平・兼保直樹・石坂丞二 (資源環境研), 後藤浩一 (関西総合環境センター): 中部太平洋における大気及び海洋間のCO₂の交換量について
- B206 山下栄次 (岡山理大), 藤原福一 (岡山市), 大滝英治 (岡山大・教養): 平衡法による海水中二酸化炭素分圧定量法
- B207 大滝英治 (岡山大・教養), 山下栄次 (岡山理大), 藤原福一 (岡山市): 海水中の二酸化炭素分圧(2)
- B208 鶴田治雄 (農環技研), 谷崎 司 (山口農試), 八木一行・神田健一・陽 崎行 (農環技研): 施肥土壌から発生するN₂OとNO (その1)
- B209 石坂 隆・杉山 実・竹中千里 (名大・水圏研): 山岳における霧水と雨水中の硫黄同位体比について
- B210 皆巳幸也・石坂 隆 (名大・水圏研): 乗鞍岳における霧水の粒徑別化学組成に関する観測(2) — エアロゾルと霧粒の組成の比較 —
- B211 中山里美・村尾直人・太田幸雄・山形 定・溝口勲 (北大・工): 感度解析を利用した対流圏光化学反応計算の簡略化

エアロゾル I

- 座長: 土器屋由紀子 (気大)**
- B212 太田幸雄・村尾直人 (北大・工), 林 健太郎 (朝バンフィックコンサケツク): 北極圏大気汚染物質の測定とその気候影響評価 (I)
- B213 時枝隆之・原田 晃・角皆静男 (北大・水産): 降水中のラドン娘核種 — 上層大気との物質交換の指標として —
- B214 毛利英明・岡田菊夫 (気研・応用): 熱帯域で採集された海塩粒子の化学組成(2)
- B215 三浦和彦・小倉康朗・水代 聡・中江 茂 (東京理大・理): 個々の海塩粒子の陸上での変質について
- B216 松岡樹雄 (北大・環境), 菊地勝弘・上田 博・遊馬芳雄・高橋暢宏・菊地 理・木下 温 (北大・理), 泉 裕明・于 連生 (北大・環境), 李東仁 (釜山水産大): 冬季季節風発達時の海岸でのエアロゾル濃度の変動 (II) [S]
- B217 池上三和子・岡田菊夫・財前祐二・堤 之智・牧野行雄 (気研): 西太平洋上空で採集された煤粒子について
- B218 赤川宏幸 (筑波大・環境), 岡田菊夫 (気研・応用): 大気中の煤粒子の性状と元素組成

大会第2日〔10月8日〕 9:00~12:30

(講演番号の下線は第2種講演を、著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

大気力学

座長: 木村竜治 (東大・海洋研)

- C201 保坂征宏・林 祥介 (東大・理): 熱帯域にある局所的な暖水域が大気を与える影響 (第二報)
- C202 石渡正樹・竹広真一・林 祥介 (東大・理): 境界でフラックスを与えた対流におけるセルサイズの変化
- C203 金久博忠 (気研・予報): 地形によって励起された流れの散逸形式への依存性に就いて
- C204 林 祥介 (東大・理), 余田成男 (京大・理), 山田道夫 (京大・防災研): 回転球面上における減衰性2次元乱流: ロスビー波の伝搬と角運動量輸送
- C205 竹広真一・石渡正樹・林 祥介 (東大・理): 境界で熱フラックスを固定したブシネスク対流〜回転の効果
- C206 岩山隆寛・岡本寿夫 (九大・理): β 平面内2次元非粘性流体の渦度に対するLangevin方程式
- C207 石岡圭一・余田成男 (京大・理): 極渦の不安定に関する数値実験

座長: 林 祥介 (東大・理)

- C208 宮寄 武 (電通大), 花崎秀史 (国立環境研): Kirchhoffの楕円渦のBaroclinic不安定性
- C209 向川 均 (気大): Eadyモデルにおける最適励起問題
- C210 玉木克美・宇加治一雄 (福岡大・理): 傾斜した底を持つ回転水槽中に生じる傾圧波動(2)
- C211 宇加治一雄・玉木克美 (福岡大・理): 環状傾圧波に対する地形性 β の効果
- C212 木村竜治・三沢信彦・上野義和 (東大・海洋研): 前線不安定の室内実験
- C213 金 海東・木村竜治・中村晃三 (東大・海洋研): 層雲内に生じる細胞状湿潤対流 (2報)
- C214 D.Wang (ニューヨーク州立大), 木村竜治 (東大・海洋研): Mesoscale baroclinic instability in a frontal system of cold air mass
- C215 伊賀啓太 (東大・海洋研): Orlandiの前線理論における不安定モードの再検討
- C216 J.Yano (NCAR), J.Sommeria (Ecole Normale Supérieure de Lyon): Unstably-Stratified Geophysical Fluid Dynamics
- C217 竹内 寛・宮原三郎 (九大・理): 火星大気潮汐の予備の数値実験

D会場

台風

座長: 大西晴夫 (気象庁・予報)

- D201 大和田道雄・石川由起 (愛知教育大): 倒木からみた大型台風襲来に伴う伊勢湾岸地域の風[S]
- D202 桑形恒男・近藤純正 (東北大・理): 風速計高度や粗度の違いを考慮した1991年台風19号の強風解析
- D203 藤部文昭 (気研・予報): 九州北部における台風9119中心域の地上風分布
- D204 岡村博文・田畑 明・森 一正 (気研・台風): T9119北西象限の下層層構造
- D205 竹内延夫・比留間文彦 (千葉大), 土屋 清 (帝京大): TOMSデータ上で台風位置に現れる全オゾン量分布変化の推定
- D206 大西晴夫 (気象庁・予報) 台風進路予報における予報円半径の統計的決定について
- D207 山崎正紀 (東大・理), 原 昌弘 (気研・台風): 10km格子モデルを用いた台風の数値実験 サブグリッドスケールの対流を考慮しない場合について

メソ現象II

座長: 青梨和正 (気研・予報)

- D208 小林寿宣 (福島大・教育): 北東冷気流の立体構造について[S]
- D209 小泉 耕・野口晋孝 (気研・予報): 北東気流型悪天予想エキスパートシステムの検証 (第1報) — ルールの情報量計算と決定木の再構成 —
- D210 辻村 豊 (気大), 松田耕治 (横浜地台): 「気圧急変動」と内部重力波ソリトン — 1991年4月8日の事例 —
- D211 神田 学・日野幹雄 (東工大・土木), 前田俊一 (北海道開発局): 任意地形周りの水文気象解析モデル
- D212 里村雄彦 (気研・応用), Ph. Bougeault (CNRM, France): Orographic Wave Drag During PYREX Experiment (II)
- D213 和田美鈴・斉藤和雄 (気研・予報): 山岳がFrontogenesisに及ぼす効果
- D214 加藤政勝 (気研・予報): 寒冷前線と山岳との相互作用に関する数値実験
- D215 高藪 出・新野 宏 (気研): 山岳風下低気圧の形成について — 1990年12月11日の低気圧の事例解析 —

大会第2日〔10月8日〕 13:30～16:00

(講演番号の下線は第2種講演を, 著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

B会場

雪Ⅱ

座長:松尾敬世(気研・物理)

- A251 藤吉康志・吉本直弘・岩崎博之・三隅良平・越田智喜・武田喬男(名大・水圏研);「都市豪雪」観測グループ(代表者:菊地勝弘):北海道の高島岬の風下に現れたバンド状エコーの気流構造
- A252 中井專人(防災科研), 遠藤辰雄(北大・低温研):山岳地形上空の降雪雲に伴う気流—ドップラレーダーとレーウィンゾンデのデータを用いた2次元の計算—
- A253 遊馬芳雄・菊地勝弘・上田博・高橋暢宏・上野圭介(北大・理), 武田喬男・藤吉康志(名大・水圏研), 竹内謙介・遠藤辰雄(北大・低温研):偏波レーダーからみた降雪雲の内部構造
- A254 遠藤辰雄・大井正行・佐藤晋介(北大・低温研), 菊地勝弘・上田博・遊馬芳雄(北大・理);「都市豪雪」観測グループ(代表者:菊地勝弘):石狩平野の降雪雲における雲粒子ゾンデの観測とその結果と二偏波レーダ観測との比較
- A255 高橋庸哉(北海道教育大), 佐藤晋介・遠藤辰雄(北大・低温研), 村本健一郎(金沢大・工):降雪粒子の形態から見た降雪雲の特徴
- A256 佐藤晋介, 遠藤辰雄(北大・低温研), 高橋庸哉(北海道教育大), 村本健一郎(金沢大・工):対流セルの発達段階と降雪粒子の構成要素の関係
- A257 沢田敏隆・播磨屋敏生・石田晴彦・菊地勝弘・上田博・遊馬芳雄(北大・理), 村本健一郎(金沢大・工):降雪粒子の雲粒捕捉成長過程の海岸部と内陸部での比較[S]
- A258 播磨屋敏生・石田晴彦・金村直俊・沢田敏隆(北大・理), 村本健一郎(金沢大・工):雪片粒径分布の特徴とその形成機構[S]
- A259 松尾敬世・水野量・村上正隆・山田芳則(気研・物理):雪雲内の降雪粒子間衝突によるNaturalシーディングの可能性
- A260 島田互・古川義純(北大・低温研):樹枝状結晶の三次元的構造—過冷却水から成長する氷結晶の場合—[V]

座長:播磨屋敏生(北大・理)

— 総合討論 —

エアロゾルⅡ・オゾン

座長:牧野行雄(気研・物理)

- B251 大和政彦(群馬大・教養), 西川雅高(国立環境研), 矢吹貞人・今井勝俊(群馬大・教養), 千葉長(気研・気候), 岩坂泰信(名大・STE研), 田中浩(名大・水圏研):ピナツボ火山の噴出現場付近に堆積した火山灰の形態と元素組成
- B252 早坂忠裕(東北大・理), 笹野泰弘・林田佐智子(国立環境研), 高村民雄(防大):成層圏および対流圏エアロゾルの粒径分布と光学的厚さ
- B253 岩坂泰信・柴田隆・林政彦・小塩哲朗・長谷正博・中田澁(名大・STE研):ピナツボ火山噴煙の成層圏エアロゾル層に与える影響—ライダー観測—
- B254 岩坂泰信(名大・STE研), 藤原玄夫(福岡大・理), 長谷正博・中田澁(名大・STE研), 秋吉英治(福岡大・理), 松永捷司(名大・STE研), 安松論史(福岡大・理), N. Brown(アラスカ大), 森育子・村井康浩・柴田隆・林政彦・小塩哲朗(名大・STE研), 近藤幸治(高層気象台), 中根英昭(国立環境研):ピナツボ火山噴火のアラスカでのライダー観測
- B255 松永捷司・岩坂泰信・森育子・村井康浩(名大・STE研), 金森悟・金森暢子(名大・水圏研), 長谷正博・中田澁(名大・STE研):アラスカ冬季のエアロゾル観測(その1)
- B256 井出迫義和(筑波大), 内野修・藤本敏文・永井智広(気研・衛星):ピナツボ火山噴火後の成層圏オゾンのライダー観測
- B257 佐々木徹(気研・物理):ピナツボ火山噴火のオゾン層への影響に関するモデル実験
- B258 千葉長(気研・気候), 大和政彦(群馬大・教養):ピナツボ火山噴出ダストの地球規模の輸送と拡散—重力落下を考慮した数値実験—[S]
- B259 川真田正宏・工藤達也・高野清治(気象庁・長期予報), 楠昌司(気象庁・数値予報), 山田真吾(気象庁・予報):ピナツボ火山噴火後の大気温度の変動
- B260 林政彦・岩坂泰信(名大・STE研):南極域中層大気における硝酸・水の鉛直輸送(1)1991年の気球観測[S]
- B261 秋吉英治(福岡大・理), 稻原孝浩(九大・理):太陽天頂角の日変動を考慮した1次元放射平衡モデル
- B262 鈴木睦・横田達也・笹野泰弘(国立環境研):衛星搭載大気周縁分光計ILASによる成層圏微量成分の観測

大会第2日〔10月8日〕 13:30~16:00

(講演番号の下線は第2種講演を, 著者名の下線は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

海洋・雪氷・大気相互作用

座長: 榎本浩之(北見工大)

- C251 萩野谷成徳・木下宣幸(気研・物理): 広域海面熱収支の自動観測(3)
- C252 斎藤 実(神戸商船大), 田中英明(大阪教育大), 杉本晃子(富士通): 東海道沖海面水温と周辺地域の気象について
- C253 関根義彦(三重大・生物資源): 北西太平洋の海洋変動と周辺地域の気温変化との関連
- C254 W. Rudzinski・M. Wakatsuchi(北大・低温研): A Laboratory Experiment on Melting of Ice Blocks in Stratified Water[S]
- C255 本田明治・若土正暁(北大・低温研): 冬季北海道の気温変動にかかわるオホーツク海の海水と大気循環場の役割
- C256 村田昭彦・居島 修(札幌管区): 北海道オホーツク海側における海水と雲の関係
- C257 白澤邦男・青田昌秋(北大・低温研): 薄氷域の抵抗係数及び熱フラックス係数[S]
- C258 中林宏典・石川信敬・兒玉裕二(北大・低温研): 長波長放射による林内融雪
- C259 竹内由香里・兒玉裕二・石川信敬・小林大二(北大・低温研): 地表面熱収支特性における積雪の効果
- C260 山崎 剛・木村富士男・近藤純正(東北大・理): 融雪期の平地での大気昇温(2)

D会場

メソ現象Ⅲ

座長: 小野寺三朗(日本航空)

- D251 楠 研一・鈴木 修・大野久雄(気研・衛星): ドップラーレーダーによる晴天時の風の収束帯の観測と晴天エコーの成因について
- D252 蕪澤 浩(気研・衛星): つくばで観測された地上付近の鉛直ウィンドシヤーの強さ
- D253 岩下晴彦(日本航空): 大阪国際空港で短時間吹いた強い発散風[S]
- D254 大野久雄・鈴木 修・蕪澤 浩・楠 研一(気研・衛星), 小倉義光(東大・海洋研): 岡山マイクログラフスト1991年6月27日V—岡山~大阪地方での状況—
- D255 菊地 理・菊地勝弘・上田 博・遊馬芳雄・高橋暢宏・木下 温(北大・理): 1992年7月9日札幌で発生した竜巻(Ⅰ)—被害からみた竜巻の規模—[SV]
- D256 木下 温・高橋暢宏・上田 博・菊地 理・遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理): 1992年7月9日札幌で発生した竜巻(Ⅱ)—ドップラーレーダーによる竜巻の構造—
- D257 金村直俊・藤井雅晴・今野真悦(札幌観測総合情報センター): 1992年7月9日札幌市で発生した竜巻について—札幌市の気象観測網による観測—

予報モデル・データ同化

座長: 里村雄彦(気研・応用)

- D258 川島正行・坪木和久・浅井富雄(東大・海洋研): 梅雨前線上に発達した積乱雲群内の気圧と気温のリトリバル—1988年7月17日熊本豪雨の事例について—[S]
- D259 吉崎正憲・瀬古 弘(気研・台風): 数値モデル出力の風データを用いたリトリバル法の開発(1) 準定常なシングルセルの場合
- D260 吉崎正憲・瀬古 弘(気研・台風): 数値モデル出力の風データを用いたリトリバル法の開発(2) マルチセルの場合
- D261 青梨和正・柴田 彰(気研): SSM/I可降水量の狭領域モデルへのデータ同化の試み
- D262 田宮久一郎(気研・予報): 大潮潮汐を考慮したノーマルモードイニシャルゼーション
- D263 田中 博(筑波大), Qiang Ji(アラスカ大): FGGE再解析データを用いた全球エネルギー解析
- D264 小野寺三朗・今井信博・佐竹 一・長東好規・斉藤 章(日本航空), 水野 洋(日航情報開発): 日・米・英の航空用等出力に於ける上層風数値予報精度
- D265 隈 健一(気象庁・数値予報): 水蒸気をSemi-Lagrange積分する全球予報モデルの開発について
- D266 田宮久一郎(気研・予報): セミラグランジュ全球スペクトルモデルの開発

ポスター・セッションの講演題目はプログラムの末尾にあります

大会第3日〔10月9日〕 9:00~12:30

(講演番号の下線は第2種講演を, 著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

航空機による大気水圏観測

座長: 大和政彦(群馬大・教養)

石坂 隆(名大・水圏研)

- A301 皇山史郎・村野健太郎・坂東 博・秋元 肇(国立環境研), 大和政彦(群馬大・教養): '91 IGAC/PEACAMPOT航空機調査における O_3 , NO_x の濃度
- A302 川上修司・近藤 豊・小池 真・岩坂泰信(名大・STE研): 西太平洋における対流圏 NO_y , NO の航空機観測
- A303 兼保直樹・蒲生 稔・林 正康・山本 晋・竹内浩士(資源環境研): 日本海西部から東シナ海上で冬季にみられる高濃度汚染気塊 — 航空機と船舶による立体観測 —
- A304 鶴田治雄(農環技研), 太田正雄(横浜市環境科研), 皆巳幸也・石坂 隆(名大・水圏研): 航空機による日本海上空での雲水中の化学成分の測定
- A305 大和政彦(群馬大・教養), 皇山史郎・秋本 肇・村野健太郎(国立環境研), 今井勝俊(群馬大・教養): 航空機による東アジア対流圏エアロゾルの観測 — '91 IGAC/PEACAMPOT — [S]
- A306 岩坂泰信・松永捷司・森 育子・村井康浩(名大・STE研), 大和政彦(群馬大・教養), 林 政彦・長谷正博・中田 澁(名大・STE研): 黄砂・エアロゾルの航空機観測 — 粒度分布と組成 — [S]
- A307 内藤玄一・小林文明・鳥谷 均・遠峰菊郎(防大・地球科学), 佐々木保徳(海洋セナ), 村治能孝(国際気象海洋): ヘリコプターとゾンデによる観測データの照合
- A308 中村晃三・浅井富雄(東大・海洋研): 航空機による大気境界層の観測(WCRP 雲と放射 航空機観測の結果)
- A309 石坂 隆・倉橋佳伸(名大・水圏研), 鶴田治雄(農環技研): WCRP雲物理航空機観測と今後の課題
- A310 熊谷 博・中村健治(通信総研), 古津年章(宇宙開発事業団), R. Meneghini(NASA/GFSC): 航空機搭載レーダ/ラジオメータによる降雨観測
- A311 遊馬芳雄・菊地勝弘・上田 博(北大・理), 武田番男(名大・水圏研), 田中正之・早坂忠裕(東北大・理), 石坂 隆(名大・水圏研): 2D-Pプローブと偏波レーダーとの相互比較観測[S]
- A312 早坂忠裕・田中正之(東北大・理): 雲の放射特性と航空機観測(WCRPのまとめと今後の展望)
- A313 中村健治・熊谷 博・花土 弘・堀江宏昭・岡本謙一(通信総研): 航空機搭載降雨レーダの開発
- A314 松永捷司・岩坂泰信・林 政彦(名大・STE研), 土屋政義・菅野 茂(シグマテック研), 森 育子・村井康浩・長谷正博・中田 澁(名大・STE研): 航空機観測用のコールドトラップの試作
- A315 若松伸司・鶴野伊津志(国立環境研): 航空機を用いた都市大気汚染の観測システムの必要条件
- A316 林 政彦(名大・STE研): 凧を用いた大気観測(1)
- A317 大和政彦(群馬大・教養), 田中 浩(名大・水圏研), R. E. Stewart, M. A. Wasey (Atmos. Envir. Serv.), J. Gyakum (McGill大), Z. Y. Peng (Dalhousie大), W. R. Peltier (Toronto大): ニューファンドランド島上空のエアロゾル — C A S P IIにおける航空機観測 — [SV]

B会場

気候 I

座長: 松本 淳(東大・地理)

- B301 伊藤孝士・濱野洋三・増田耕一・松井孝典(東大・理): ミランコビッチサイクルに対する固体惑星の変形効果
- B302 福山 薫(三重大・教育), 山本淳之(大阪電通大), 柏谷健二(神戸大): 琵琶湖堆積物粒度変動にみられる更新世中期の気候ジャンプ
- B303 荒井美紀・竹内謙介(北大・低温研): 気温の長期変動に於ける時系列特性
- B304 米谷恒春(防災科研): 気温と降水量の地球規模での変化
- B305 水越允治(三重大・人文): 近畿・東海地方における19世紀以後の冬の寒さと, 同地方太平洋側の冬の降水量の長期変動傾向
- B306 加藤央之(電力中研): 多変量解析法を用いたわが国の気温のトレンド解析
- B307 小元敬男・巖 香姫(大阪府大・農): 東京及び大阪の中心域における近年の湿度変化の特徴
- B308 北田敏廣(豊橋技術科学大), 久保田庄三(東京都), 国井克彦(原子力研): 土地利用の変化が濃尾平野の気温分布に与えた影響に関する数値解析 — 土地被覆の改変と人工熱源増加の気温変化に対する寄与 —
- B309 佐々木秀孝・木田秀次・小出 孝・千葉 長(気研): 局地気候モデルの開発(6) — 日本列島スケールの降水量分布 —

気候 II

座長: 高野清治(気象庁・長期予報)

- B310 大和田道雄(愛知教育大), 杉山範子(気象協会・東海): 本邦付近における冬季の低気圧の移動経路と東海地方の降水について
- B311 秋山孝子・竹内允志(気象協会): 天気図型の出現率の類似性からみた季節の推移
- B312 丁 亨斌・木村竜治(東大・海洋研), 田口彰一(資源環境研): 500hPa等圧面から見た大気変動の特性: 夏半球と冬半球の比較
- B313 川村隆一(防災科研): 北半球500-mb高度場におけるintramonthly-interdecadal scaleのテレコンクシヨンのclimatology-暖候季(4-9月) —
- B314 尾瀬智昭(気研・気候): 複素EOFを用いた熱帯-中高緯度大気モードの解析
-
- A318 井上(吉川)久幸・松枝秀和(気研・地球化学): 民間航空機による上層大気中の微量気体観測について
- A319 牧野行雄・池上三和子・堤 之智・財前祐二・岡田菊夫・吉川久幸・松枝秀和・二階堂義信(気研), 廣田道夫(気象庁・汚染分析セナ): 西太平洋域における大気微量成分の航空機観測 — (計画) — [S]
- A320 浅野正二・堀原匡貴・内山明博・真野裕三・村上正隆・深堀正志・高山陽三・田中豊顕(気研): JACCSにおける雲と放射の航空機観測計画について

— 総合討論 —

大会第3日〔10月9日〕 9:00~12:30

(講演番号の下線は第2種講演を, 著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

陸面・大気相互作用

座長: 桑形恒男(東北大・理)

- C301 木村富士男・清水勇吾(東北大・理): 地表面温度による顕潜熱フラックスの推定 — 線形大気陸面結合モデルとその応用 —
- C302 光本茂記・沼口 敦(国立環境研): 地中を多層化した陸地表面モデル — 第一報 —
- C303 高藪 出・藤谷徳之助(気研・応用): 地中の水分量が土壌熱容量に与える特性について — 簡単なモデル実験の結果 —
- C304 渡辺 力(東北大・理): 植物群落モデルにおけるK-理論とクロージャーモデルの比較
- C305 光田 寧(京大・防災研), 佐橋 謙・塚本 修・米谷俊彦(岡山大), 鈴木力英(筑波大), 大滝英治(岡山大): オアシス麦田上での乱流フラックスの測定[S]
- C306 菊地時夫(高知大・理): HEIFE 沙漠における飛砂の観測[S]
- C307 玉川一郎(京大・防災研), 永井晴康(原子力研), 光田 寧(京大・防災研): HEIFE 砂漠観測点での渦相関法による乱流輸送量の観測
- C308 小林哲夫・永井秀幸(九大・農), 柴田昇平(農環技研): 沙漠は大気中の水蒸気を吸収するか
- C309 塚本 修(岡山大・教養): ゴビ砂漠で観測された下向き水蒸気輸送についての一考察
- C310 塚本 修(岡山大・教養), 王 介民(蘭州高原大気物理研), 光田 寧(京大・防災研): オアシスで観測された水蒸気圧の夕方のピークについて

大気境界層 I

座長: 鈴木力英(筑波大・地球科学)

- C311 蒲生 稔(資源環境研): 砂漠の混合層(その3)
- C312 蒲生 稔(資源環境研): 中国の混合層
- C313 吉門 洋・山本 晋・北林興二(資源環境研): 内陸平野の盛夏期の混合層の観測
- C314 橋口浩之・深尾昌一郎・山本 衛・山中学・中村卓司(京大・超高層), 佐藤 亨(京大・工), 津田敏隆(京大・超高層): 境界層レーダーによるプラネタリー境界層の観測
- C315 小林哲夫・森 牧人・脇水健次(九大・農): 黒丸地区(福岡)における冷気流の特徴について
- C316 小林哲夫(九大・農), 福山博己(気象協会・北海道), 森 牧人(九大・農): 温位分布とその変動からみた冷気流の特性について
- C317 近藤裕昭・吉門 洋・北林興二(資源環境研): 内陸盆地気象の特徴について
- C318 吉門 洋・水野建樹(資源環境研): 初冬季に高濃度大気汚染をもたらす関東南部の局地前線の立体構造

D会場

中層大気

座長: 宮原三郎(九大・理)

- D301 廣岡俊彦(気大), 菅野能明(函館海洋): 日本上空における成層圏気温とオゾンの長期変動 — 太陽活動11年周期変動との関連 —
- D302 川平浩二(富山高専), 廣岡俊彦(気大): 成層圏気温長期変動の高度および緯度分布(1)
- D303 廣岡俊彦(気大), 山下順也(名瀬測), 川平浩二(富山高専): 成層圏循環の長期変動 — CIRA 1986Modelと1980年代平均場の比較 —
- D304 山崎孝治・千葉 長・小寺邦彦・黒田友二(気研・気候): 冬から春の時期の南半球成層圏循環の年々変動 — 観測とGCM —
- D305 黒田友二・山崎孝治・千葉 長(気研・気候): モデルに現れた南半球冬期成層圏のジェット軸のシフトについて
- D306 斎藤英也・津田敏隆・足立樹泰・深尾昌一郎(京大・超高層): MUレーダーにより対流圏・下部成層圏で得られる反射エコー特性の研究
- D307 下舞豊志・山中学・深尾昌一郎・津田敏隆(京大・超高層): MUレーダー3週間連続観測結果の鉛直ウェーブレット解析
- D308 佐藤 薫(京大・理): 下部成層圏慣性重力波の季節変化(3)
- D309 黒崎 聰・山中学・橋口浩之・津田敏隆・深尾昌一郎(京大・超高層): 中層大気鉛直渦拡散係数の季節変動及び経年変動(2) — 1986~91年のMUレーダー観測結果と準2年周期変動の検討 —
- D310 村山泰啓・津田敏隆(京大・超高層), R.Wilson(パリ大), 中根英昭・林田佐智子・杉本伸夫・松井一郎・笹野泰弘(国立環境研): 国立環境研レーリライダー観測による中層大気中の重力波エネルギーの変動
- D311 深尾昌一郎・山本泰史・山中学・高見友幸・山本 衛・津田敏隆(京大・超高層): MUレーダーで観測された熱圏重力波
- D312 松山勇二・宮原三郎(九大・理), 大河内康正(八代高専): 対流から発生する内部重力波に関する数値実験(第3報)

大会第3日〔10月9日〕 13:30~16:00

(講演番号の下線は第2種講演を, 著者名の下線は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

メソ現象IV

座長: 中井専人(防災科研・つくば)

- A351 平沢尚彦(名大・水圏研): 梅雨期における傾圧性擾乱形成期間と対流性中間規模擾乱形成期間の大気循環場の比較
- A352 田畑明・山田芳則・岩崎博之・榎原均(気研), 中井専人(防災科研): 梅雨前線帯に発生した中規模対流系の変化と構造
- A353 柴垣佳明・前川泰之(大阪電通大), 山中大学・橋口浩之・深尾昌一郎(京大・超高層), 佐藤亨(京大・工), 津田敏隆(京大・超高層), 上田博(北大・理), 渡辺明(福島大・教育), 高藪出(気研・応用): 梅雨前線近傍の鉛直流変動に関するMUレーダー3週間連続観測
- A354 渡辺明(福島大・教育), 上田博(北大・理), 山中大学(京大・超高層), 住明正(東大・気候システム): 梅雨前線帯のMeso構造III
- A355 清水収司・上田博(北大・理), 渡辺明(福島大・教育), 山中大学(京大・超高層), 住明正(東大・気候システム): 信楽における梅雨前線の構造の観測(4) — MUレーダー・気象ドップラーレーダーによる解析と収支解析結果の比較検討 —
- A356 橋口浩之・深尾昌一郎・山中大学・山本衛・中村卓司(京大・超高層), 佐藤亨(京大・工), 津田敏隆(京大・超高層): 境界層レーダーで検出された中部対流圏高度のエコーについて
- A357 木崎正士・足立樹泰・津田敏隆(京大・超高層), 増田悦久(通信総研), 深尾昌一郎(京大・超高層): MUレーダー/RASSを用いた寒冷前線による大気重力波の励起に関する考察
- A358 足立樹泰・津田敏隆(京大・超高層), 増田悦久(通信総研), 木崎正士・深尾昌一郎(京大・超高層): MUレーダー/RASSによる熱・運動量フラックスの観測
- A359 永戸久喜・佐藤薫・廣田勇(京大・理): 周波数スペクトルに基づく対流圏中規模擾乱の解析
- A360 坂井武久・菲沢浩・永井智広・水野量(気研): ウィンドプロファイラとマイクロ波放射計データを用いた大気現象の事例解析
- A361 藤吉康志・秋驥・武田喬男(名大・水圏研): 二台のドップラーレーダーを用いた中層メソ渦の解析

B会場

気候III

座長: 山中康裕(東大・気候システム)

- B351 森山茂(日大・生産工), 野本岳志(東大・農), 湖上晨一(日大・生産工): 閉鎖生態系を用いた地球環境の生成に関する研究(その2) [S]
- B352 沖大幹・虫明功臣(東大・生産研), 増田耕一(東大・理): 大気水収支法による水の南北輸送量算定
- B353 松野太郎(東大・気候システム): 温室効果ガス増加による温度上昇に及ぼす海洋の影響
- B354 野田彰(気研・気候), 高田久美子(東京電力・技術研): Arakawa-Schubertのパラメタリゼーションを用いた1次元放射対流平衡大気(III)
- B355 岩朝美晴(中京短大・経営), 田中浩(名大・水圏研), 阿部豊(東大・理): 放射対流平衡の直接計算(4)

大気大循環

座長: 田口彰一(資源環境研)

- B356 田口彰一(資源環境研): 対流圏の南北両半球大気の境界[V]
- B357 岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 気塊追跡による冬季対流圏中緯度の子午面循環の解析
- B358 野田彰(気研・気候): 絶対角運動量保存則に基づいた子午面残差循環
- B359 佐藤正樹(東大・気候システム): 軸対称モデルを用いたハドレー循環; 角運動量収支とハドレー循環の幅
- B360 久保田効(札幌管区): OLR解析によるHadley Cellsの季節変化と北偏
- B361 沼口敦(国立環境研): 熱帯降水帯とハドレー循環の季節変化とエネルギー収支
- B362 村崎万代(名古屋地台), 木田秀次・千葉長(気研): 地球回転を変化させたときのITCZのSST依存性
- B363 二階堂義信(気研・気候): 夏半球の亜熱帯高気圧研究(その4) — 亜熱帯高気圧を巡る大気大循環の渦位収支について — [SV]

大会第3日〔10月9日〕 13:30~16:00

ポスター・セッション 大会第2日〔10月8日〕

C会場

大気境界層Ⅱ

座長：鶴野伊津志（国立環境研）

- C351 原岡秀樹・遠峰菊郎・宮本一彦・川端隆志・深渡瀬角太郎（防大・地球科学）：係留ゾンデによる海霧進入時の境界層の観測
- C352 中田琢志・植松孝彦・金田安弘（気象協会・北海道）：勇払原野でのビデオによる海霧観測〔V〕
- C353 佐藤隆光・中西幹郎・金田安弘・植松孝彦・中田琢志（気象協会）：海霧の侵入・消散の数値シミュレーション
- C354 千葉修（高知大・理）：SodarとSATの観測による大気境界層下部の乱流構造
- C355 鈴木力英・河村武（筑波大・地球科学）：沿岸域における地表風の総観規模の気圧傾度に対するレスポンス
- C356 大河内康正（八代高専）：局地循環における雲物理過程
- C357 鶴野伊津志・若松伸司（国立環境研）：都市域における夏と冬の大気汚染の相違(1)2次元モデルによる数値シミュレーション
- C358 鳥谷均・高村民雄（防大・地球科学）：都市域での地上反射率の推定 — NOAA画像によるマッピング — [S]
- C359 小林隆久（気研・応用）：建造物が都市Canopyの長波長放射に及ぼす影響
- C360 高橋俊二（気研・応用），赤川宏幸（筑波大・環境）：Urban Canopyの放射モデル
- C361 M. Roth（国立環境研）：EQUALITY OF EDDY DIFFUSIVITIES OVER CITIES
- C362 花房龍男・加藤真規子（気研），日比一喜（清水建設㈱）：風の乱れのスケールについて
- C363 加藤真規子・花房龍男（気研）：平坦地形上の気流の風洞内再現
- C364 神田学・日野幹雄・稲垣聡（東工大）：LESによる大気-植生境界における大規模渦構造と穂波現象の数値解析
- C365 B. Dubrulle（トゥールーズ天文台），新野宏（気研・物理）：乱流の長さのスケールの診断式について
- C366 山田哲二（Yamada Science & Art）：凝結，放射過程を考慮した乱流クロージャーモデル

概要紹介 16:10~16:30 A会場

座長：隈健一（気象庁・数値予報）

講演 16:30~17:30 ポスター会場

- P201 藤井雅晴（㈱札幌総合情報センター）：札幌市の気象観測システム
- P202 山中大学・橋口浩之・深尾昌一郎・山本衛・中村卓司・津田敏隆（京大・超高層），佐藤亨（京大・工）：梅雨前線近傍の惑星境界層における中間規模風速変動：境界層レーダー3ヶ月連続観測結果速報
- P203 加藤内蔵進（名大・水圏研），松本淳（東大・地理），岩崎博之（気研・台風）：中国大陸上の日変化するCb群の気候学的分布に関連した総観場（1979年6~8月の事例解析，統報）[S]
- P204 加藤内蔵進・趙蒼・武田喬男（名大・水圏研）：日本付近における雲量の10-20日周期の季節内変動 — 1990年暖候期の事例解析 —
- P205 松山洋（東大・地理），沖大幹（東大・生産研），篠田雅人（都立大・地理），増田耕一（東大・理）：コンゴ川流域における地表面-大気結合系の水収支
- P206 松本淳（東大・地理）：アジア・オーストラリアモンスーン地域における降水量分布(1)半旬平均値の分布
- P207 馬淵和雄（気象庁・長期予報）：最近10年間の全球的全天日射量について
- P208 沖理子（東大・気候システム），沖大幹（東大・生産研），住明正（東大・気候システム）：TRMMによる日周期観測についての検討
- P209 近藤豊・小池真・林政彦・岩坂泰信・中村圭・A. Budiyono（名大・STE研），清水明（国立環境研），山内恭・青木周司（極地研）：南極昭和基地における成層圏二酸化窒素及びオゾンの分光観測
- P210 牧野行雄・忠鉢繁・佐々木徹・堤之智（気研・物理）：赤外分光測定による成層圏HClの観測(Ⅱ)
- P211 藤田慎一・高橋章・西宮昌（電力中研）：わが国における降水の化学組成と硫酸イオンの湿性沈着量